



東西大学校語学研修の記録

2015/04/02

東西大学校語学研修を実施する意義

■目的

青少年の健全育成に関わる国際交流プログラムを実施し、お互いの国を知り、青少年が同じ視線で物事を理解して行くことが求められています。このプログラムでは、語学を学ぶだけではなく韓国の伝統と文化を通して知識を得て行く事を目的にしています。東西大学校の学生と本校の学生が互いの意見を交換し、相互信頼関係を築くことも最大の目的でもあります。

■プログラム参加学生の達成目標

コミュニケーション運用能力を計ることに重点を置いたプログラムであり成果は、学生がどれだけ多く他の人たちとコミュニケーションを計った度合いで達成目標を計ります。日本での学修環境下ではそれほど多く韓国語と触れ合うことがないことから、このプログラムでは、より多くの人とコミュニケーションを計り、外に向かう力と積極的態度を育成したいと思っています。

研修後は成果発表会などを行い、資料をして残すなど数字化は出来ないが目的が達成できるように計ることが出来ました。授業の体制は、本校の学生9名であり少人数の中で話す、聞く事を中止に30時間の授業が行われました。授業以外では、韓国伝統文化体験として伝統衣装体験、小旅行、キムチ作りなどが行われました。

東西大学校の日本語学科の学生と共に、買い物などにかけ、親密度を深める事が十分に出来た。参加学生は、高い満足度を持って帰国する事が出来た。小さな目標はあったが、日韓の友情の輪を少しでも広げる事に貢献出来たのではないかと思われる。

内向化が進む大学の中で

日本の学生に「内向化」が進み、その結果「海外に出ない」「留学は面倒」「わざわざ苦労するのは」という学生が増加傾向にあることが報告されている。確かに、大正大学においても同様の動きや傾向がここ数年見受けられる。特に男子学生の内向化は顕著になっているように思われる。この主な原因は、他大学でも同じであろうが、大学生活の中で時間的な余裕と金銭的な余裕が持てない学生と言語での障壁が、その原因となっているように推察される。しかし、実際に、現地で見ること、聞くこと、触ることで本物を知ることになります。その結果として、このプログラムには、歴史、伝統、芸術、絵画、音楽が欧洲の香りがあり、参加する者の満足度は高くなっていると思う。

本校が実施している「東西大学校語学研修」では、東西の学生と交流しながら学んでいくことを大事にしている。

この号の内容

語学研修を終えて	1
各学生レポート	2
研修資料	3
付録	4

重要な日付

01/31	成田空港に集合でした
02/12	釜山
02/23	思い出の写真



人文学科 木曾 茉和

2月2日から2月15日まで東西大学校語学研修に参加した。私は2年前に同じ研修に参加していた為、釜山の生活に慣れていた点もあったが、今回の研修で新たに感じたことをここで報告したいと思う。

まず、2年前と一番の違いは、両替のレートである。2年前に比べて円高が急激に進んだ為、買い物や食事の際“お得感”を感じられなくなった。しかしながら、日本に比べて食事に関しての物価は安いと思うことが多かった。特に何人かでシェアして食べることの出来るフライドチキンや、スイーツ類は安いと感じた。

この写真は、ソルビンというパッピング専門のチェーン店で食べたインジョルミピンスとトーストである。(インジョルミ=きな粉餅)ピンスが7000ウォン(約765円)でトーストが4500(約492円)ウォンだったが、量が多く女性であれば3人でシェアすれば丁度良いぐらいの量だった。食べ物の量が多いという点で価格以上の満足感を得られると思う。

次に韓国と日本の人の違いについて比較してみる。まず、お店の接客について、日本ではどこへ行っても笑顔や丁寧な対応を受けることが出来る。一方韓国では、店や人によって接客の差があり、特に驚いたことはコンビニでは携帯電話を触りながら仕事をしていることである。これは日本では全く見受けられない光景だろう。

次に街を歩いていると話しかけられることが多く、道を尋ねてたり、写真を撮ってほしいと頼まれたり、日本より知らない人に話しかけられる場面が非常に多かった。また、知らない人であるはずなのに、フレンドリーな人が多いとも感じた。日本より人ととの距離が近いように感じた。

次に交通機関について、日本と同じように移動手段として電車、バス、タクシーがある。電車は主に地下鉄だが、日本のように迷うほど路線は多くない。またSuicaやPASMOのような交通カードもあり、交通カードを使えば割引を受けることが出来、大変便利である。改札は全てタッチ式であり、日本のように切符はなかった。

タクシーは今回の研修で乗る機会はなかったが、日本より利用料が安く、利用者も多いと感じた。

今回初めて公共のバスに乗り移動をして、日本のバスとの違いに非常に驚いた。日本に比べて路線が多く、乗るバスの行き先に気を付けなければならない。しかし、停留所にある電光掲示板を見れば何分後に到着するのか一目瞭然であるので便利である。日本にはないシステムだが、バスでも乗り換え割引を受けることが出来る。これは交通カードを使った際に受けられる割引である為、交通カードは1枚持っていると大変便利である。日本と一番違う点は乗り込む際に少しでもたついてしまうと運転手は待ってくれない為、スピーディーな乗り込みをしなければならない。また、乗り込んだ後も支払いを待たずに発車してしまう為注意が必要である。運転の速度も速く、揺れも激しい為手すりやつり革にしっかりと捕まっていないと危ない。安全の面ではやはり日本は徹底されているなと思った。

最後に二週間の語学研修に参加し、授業で韓国語を学んだり、いろいろな文化の体験をし、韓国についての理解がより深まった。二度目の参加でも新たに感じるものは多く、他国を知ることで、自国の良い点や悪い点も見えてくるようになった。

今回の研修で見たもの感じたものは自分の中で貴重な経験になった。また参加してよかったですと思える研修になり、本当に良かったと思う。



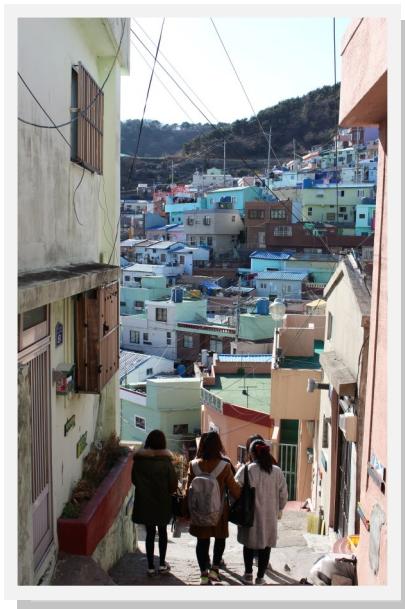
人文学科 内木 紫桜

今回私は、韓国釜山の東西大学校で2週間の語学研修に参加しました。研修では韓国語の授業を受講するだけではなく、韓国の文化に触れることのできる様々なプログラムが組まれていました。実際に大学の学生寮で生活し、地下鉄やバスで街へ出たり食事や買い物をしたり、学生と交流をしたりとても充実した時間を過ごすことができました。そして、これまで知ることのなかった韓国の文化や歴史、考え方、生活様式など多くのことを知ることができました。

研修中、授業以外のプログラムのある日はバスでの移動が主でした。大きな道路を走っていて感じたのは、全体的に車の走行スピードが速いことです。また、日本のような歩行者優先という考え方方が薄いのか、信号のない場所や狭い道などではなかなか横断できないことが多く、日本の感覚でいると危険だと感じました。大学が坂の上に建っているのですが、その坂がとても急で歩いて登るたび本当に疲れました。タクシーの運転手の中には大学まで運転するのを嫌がる方もいらっしゃるそうです。日本では見たことのない勾配でした。しかしそれにも関わらず、道には路上駐車された車がとても多かったです。一般的な路線バスにも乗りましたが、スピードがとても速いうえに乗客がバスに乗り込んだ途端に走り出すのには驚きました。急発進・急停車のたびに大きく体が揺さぶられて大変でしたが、韓国の方は皆平然としていて不思議でした。休みの日や授業後の空き時間などには地下鉄を頻繁に利用しました。日本とあまり違いはなく、日本と同じようにカードにチャージをして改札を通り地下鉄に乗りました。車内では頻繁に携帯の着信音が聞こえて、韓国では普通のことであると分かっていても慣れませんでした。日本と同じように見えて、実際に利用してみると違う点というものは多いのだと感じました。

食事の面で特に強く印象に残っているのは、やはり辛いものが多いということです。今回の研修では、朝食と夕食を学生寮にある食堂でとることになりました。メニューは毎日違いましたが、辛いものが出てない日はほとんどなかったように思います。そして日本との大きな違いは箸です。韓国で使われる箸は金属製またはステンレス製で、平たく薄い形をしています。日本では主に木製の箸が使われる所以、食事中は少し重く感じましたが、慣れてくるとあまり気にならない程度でした。私は辛いものがそれほど得意ではないのですが、海外において最も身近に感じられる差異というのは食事ではないかと思いますし、その点ではとても興味深いことでした。街を歩いていると、ときどき日本語で書かれた飲食店の看板を見かけました。居酒屋が多かったように思います。日本語そのままのビールのポスターが貼られている店もありました。

2週間という期間は、韓国語を学ぶにはあまりにも短い時間でした。生活に慣れる前に帰国しました。2週間韓国で生活し、日本との違いや文化を自分の目で見て知り確かめられたことはとても良い経験であったと感じます。また、韓国語でのコミュニケーションがうまくいかないもどかしさを強く感じました。これからより一層勉強に力を入れなければならぬとあらためて考えさせられました。海外に出ることは、もちろんリスクを伴うことではありますが、それ以上に得るものは多いと思います。外国語を学ぶうえで、実際にその国へ行くということは何より力になることです。今回のような短期の語学研修は、まだ海外へ出たことのない人や留学を検討している人、迷っている人にとって良い機会ではないかと思います。今回私はこの研修を通して様々なことを学びました。今後多くの学生が研修に参加し、良い経験を得られるといいなと思います。



私が日本から外に出たのは、今回の語学研修が人生で初めてでした。出発前は緊張と不安と期待で落ち着きませんでした。2週間という時間をお外国で過ごすことは、今しかできない貴重な経験だと考えます。今振り返ってみると、吸収しきれなかつたこと多くある気がして悔しいばかりです。

到着してまず目に飛び込んで来たのは歩行者用信号でした。日本の信号は赤信号と青信号が並んでいて、青信号になった後はしばらく点灯し続け、赤に変わる少し前に点滅し始めます。それに対して韓国の信号は、赤信号と青信号の他に秒数をカウントする信号も並んでいました。韓国にあるすべての信号が同じというわけではなかったのですが、とても衝撃を受けました。空港近くの信号だったからなのでしょうか。東西大学の近くにある信号は、日本の信号と似ていました。しかし、青信号の点滅時間が日本とは違いました。点灯時間がとても短く、点滅時間が長かったです。道路の幅がとても広いために、早くから点滅して「今から渡りはじめると渡りきれないぞ」ということを知らせているのだそうです。

宿舎についてからは毎日毎食必ずチムチが出てきました。学食はもちろん、外食でも必ず前菜として注文したものとは別で、先にテーブルに出てきました。種類も様々でした。右記の写真は12日目に行ったキムチ作り体験の時にお昼でいただいたキムチたちです。辛さもそのキムチによって違い、酸味なども何を漬けているのかでとても違いました。

左記の写真は学校近くの駅で撮った駅の改札の写真です。日本でもあるICの切符もありました。紙の切符もありました。日本と違うのは、距離で料金が変わるのはなく、どこまで乗ってもいくら、と値段が決まっていました。とても安く色々なところに行けて便利だと感じました。また、写真からもわかりますが改札の形が日本とは大きく違いました。日本では自動で開く改札機ですが、ここは切符もしくはICカードをタッチしてから手動で棒を押して進むものでした。

こちらの写真はナンボの街並みです。日本の新大久保と似た雰囲気でした。看板やお店の色使いが鮮やかで、日本で見る街並みとは少し違うなと思いました。ソミヨンという街にも行きましたが同じように日本とは違うなと感じました。ナンボには面白い銅像がたくさんありました。おじさんの銅像で肩を組んで座っているように見える写真が撮れたり、観光地らしい感じでした。ソミヨンにはカップル向けのものが多かった気がします。

伝統衣装のチマチョゴリ体験をしました。簡単に着ることができるようにになっており、思っていたよりもとてもスピーディーに終わりました。これまた日本ではあまり見ない色使いで新鮮でした。昔の人は鮮やかな服を着ていたのだなと思いました。そして軽かったです。和服の着物というと何枚も何枚も重ねて、重くて苦しいイメージがありますが、韓服はまったくそういうような感じはありませんでした。

今回の研修に参加できて本当によかったです。日本では受けることのできない色々な刺激を受けることができました。これから自分の力にできたらと考えています。現地スタッフとして私たちを世話してくれた方々もとても優しく、初めての海外、初めての韓国が、この研修でよかったですと心から思います。また機会があれば、ぜひ訪れたいと思います。今度は研修という形ではなく、個人的な旅行でも来て



1、はじめに

2月2日から2月15日の2週間、東西大学校語学研修に参加した。韓国へは旅行でソウルに訪れたことはあったが、釜山は初めてである。私は釜山に対し、田舎であり、あまり栄えてはおらず、なんもないというイメージを持っていた。（実際はソウルの明洞、東京の原宿のような、ソミヨンや南浦洞という栄えている街があった。）

自分の好きな興味ある韓国へ行き、実際に体験することで文化を学ぶこと、現地の人達や学生と関わり韓国についての理解を深めること、そして今の自分の語学力を知り、今後の学習に生かすことを今回の研修の目標とし参加を決めた。

2、経験と学び

研修は韓国語の授業と東西大学の学生との交流、文化体験・見学、自由行動・・・という内容であった。授業はすべて韓国語であり、大学で文法しかやっていない私には簡単なものではなかった。授業で勉強したことと、K-POPアイドルが歌う曲や出ているバラエティ番組を見て聞いて覚えた単語くらいしか私は分からず、ニュアンスで理解することくらいしかできなかった。聞いて理解できても、言いたいように表現できない自分の無力を痛感した。その反面、理解できたときの嬉しさを実感することができた。今後勉強をしていく上で、足りない力を知ることができた。

東西大学の学生との交流は、日本が好きで学ぶ学生と韓国が好きで学んでいる私たちという関心が全く異なる人と人との交流であったが、そんなのを忘れるくらい楽しいものであった。日本語学科の学生たちは、私たちが行きたいところを調べてくれ、楽しめるようにプランを考えてくれた。実際行った広安里はとても綺麗で、良い思い出となつた。行ったことや食べたことも良い経験であったが、そんな中話した会話のほうが私にとって良い経験だと感じた。日本語にはない韓国語や、若者言葉など教科書では学ぶことのできない韓国語を学ぶことができた。その他プログラムに組み込まれる文化体験は、今まで経験したことないことばかりであった。まずチマチョゴリ体験だ。韓国に興味を持った頃から一度は着てみたく、今回のプログラム内楽しみの1つであった。が、自分たちで好きなものを選ぶことは許されなかつたため、物足りなかつた。今後韓国に来た時にまた体験したいと思った。

これらのプログラム外での経験として印象的なのは、店の店員との出会いである。まず1人目は、2週間滞在中私たちがよく利用していたコンビニの店員である。50代のおばさんだ。韓国は日本とは異なり、仕事中平気で携帯をいじったり、店員同士お喋りしていたりする。そのおばさんも客がレジを待っているにも関わらず、手鏡を見ながら口紅を塗っていた。そんなおばさんが最終日の前日に話しかけてきたのだ。そして、いつもは無言で商品を渡されていたが、この日はありがとうと言つてくれた。大したことではないが、話しかけてくれたことが嬉しく、自分もコンビニでアルバイトをしているので、お客様としてきた外国人になにか印象に残ることをしてあげたいと感じた出来事であった。2人目もまたコンビニの店員である。20代の男の人だ。個人経営のようなコンビニで、客も私たち以外いなかつた。私たちが探していた「ハニーバーチップス」があるか尋ねると、レジからわざわざ出てきて、このポテトチップスと味が似ているという他の商品を教えてくれた。そして店内で流れていた曲が、一緒にいた友達の好きな曲だとわかると、もう1度かけてくれた。その人は私たちが東西大学で勉強しているのかなど話しかけてくれ、日本が好きだと言ってくれた。その言葉がとても嬉しかつた。日本と韓国は隣の国だというのに、遠い国だと感じる。韓国との関係はいいものとはいえない。韓国が嫌いな日本人も日本が嫌いな韓国人もいる。そんな中私は韓国が好きで興味を持っているが、それを好ま

ない友達もいる。しかしこの男の人のように日本が好きといってくれる人や、日本語を勉強する東西大学の学生と出会ったことで、自分が学ぶ意味をただの趣味に終わらすのはもったいないと考えるようになった。私一人がなにかしたからといって、難しく大きな国際的な問題を解決することは不可能だろう。だが、大学に来る留学生や日本にくる外国人と関わりの中で、自分が力になれることははあるはずだ。そのためにもより一層勉強して、誰かの為になれる程の力をつけたいと思う。

3、まとめ

今回の語学研修で得た経験と学びを、ただの思い出として終わらすのは勿体無い。ここで出会った人たちとSNSで繋がり、今も連絡をとっている。こうした出会いを今後も大切にし、東西大学の学生が日本に留学してきた時には、私たちがしてもらったようにおもてなしをしてあげたい。また勉強面においても、今後に生かすべく、今の私に足りないものを補うように学習していきたいと思う。



今回この語学研修に参加して一番に感じたことは「実際にに行くことの大切さ」である。日本でニュースや番組を観ていると、反日デモといった「日本と韓国の関係は悪い」というイメージを植え付けるような報道が多い。無意識のうちに「韓国は皆が反日なのではないか」と思わせるような内容になっているようにさえ思える。私は韓国の文化や言語が好きなので、もちろん韓国は好きな国である。しかし、行く前に「実際にに行って韓国が好きでは無くなる可能性もあるかも。」と思っていた。それは、初めての海外で日本のことしか知らない自分が、韓国の文化を受け入れられないのではないかと思ったのである。しかし、実際にあってその心配は一気に無くなった。現地の学生たちは「日本のアニメや音楽が好きだ。」と言い、お店の店員さんたちは私が日本人だと分かっても親切に対応してくれた。日本にいるときには勝手なイメージだけで考えてしまうことが多いが実際にあって自分で感じることによって分かることが多いと思う。これから日韓関係が、もっと良くなったら良いと思っている。そのために、日本人が実際に韓国に行って観光をして良さを知ることも大切だと思った。また今回、交流の機会を増やすことも大切だと実感した。大切な友達がいる国を簡単に嫌いだといえる訳がないと思い、もっと日本と韓国で友好を築けるようなプログラムが増えれば良いと思った。

今回、実際にあって文化の違いも感じた。まず日本では、食べたくても年上の人前では遠慮したりすることがある。それは、遠慮することが良いとされる文化だからである。逆に韓国では遠慮することは良いとされておらず、はつきりと行動や言葉で示すことが好まれているようだと思った。

その他に日本では鍋料理を皆で食べるときには取り皿に分けて食べることが多いが、韓国では皆で一つの鍋を突っついて食べる。もし、取り皿に分けて食べると相手に心を許していない、または仲良くなりたくないというような印象を与える。

また、日本では出された料理を全て食べることが礼儀だとされているが、韓国では残すことでも悪いことでは無いとされている。逆に全て食べると「足りませんでした。」という意味になってしまうこともあるそうだ。

距離的にも近く一見似ているように見えるが、文化の違いが多くあることが分かった。

そのような文化の違いも受け入れ、自分の国の文化以外にも多くの文化があるということを知ることも大切だと思う。このことは、視野を広げ発想を豊かにするきっかけになると思った。

今回の研修で初めて韓国に行って、実際にあって自分の目で見て肌で感じることは大切だと思った。また文化の違いを知って、それを受け入れることも大切だと思った。2週間という短い間ではあったが韓国語しか使えない状況に自分を置くことで、聞き取りや話す能力がついたように感じる。しかし、まだまだ自分の力不足で言いたいのに言えないことも多く悔しい思いもした。日本に帰ってきた今は、その経験を忘れずに勉強を頑張っていきたいと思う。



この研修で、私は初めて海外に行った。韓国で電車に乗り、友達と日本語で話をしていると、周りの韓国人の視線を感じた。外國にいることを実感した。韓国に来て思ったことは、日本で当たり前のことが韓国では通用しないこと。この研修を経て、文化の違いを感じることができた。まず、道路が日本と左右反対のため、運転席が車内から見て左側にある。民間のバスに乗るときに、非常に違和感があった。また、韓国では、歩行者より乗用車優先であり、横断歩道の前で車が止まろうとしない。私は少し危ないと思ったがこれも韓国の文化だと思う。次に、食文化で違いがあった。日本には、食事を出されたら残さず食べなければならないという考え方があるが、韓国では逆に、一度にたくさんの数の食事が出るため、残してもよいという考え方がある。研修中に、食事の中で、次から次へとおかずが出て、テーブルに乗らなかつたときは、驚いた。



韓国料理に欠かせないものはキムチで、食事の際に必ず出でいた。キムチづくりを体験しに工場へ行き、見学した。アジュマ（叔母さん）たちが白菜一つ一つ手作業で作っていて印象的だった。

韓国と日本は政治上ではあまり仲良くはないが、実際日本人に対して優しく接してくれた。私は、駅で電車に乗るためのカードを買う際、機械に1000ウォン札を差し入れることを知らなかった。そのため、大きいお金しかもっていなくて困っていた私の後ろにいた叔母さんが、私の10000ウォン札1枚を1000ウォン札10枚に替えてくれた。その叔母さんは、一切しゃべらず両替してくれた。だから、私が外国人と分かってしてくれたのだと思うと、叔母さんはとても親切だと思った。最近日本では、繁華街に行くと外国人をよく見かけるので、もし困っている外国人に遭遇したら、その叔母さんのように積極的に接しようと思う。

この研修で日本語学科の韓国人の学生と交流し、私は韓国語の発音を教えてくれた。正しく発音するのは難しかったが、一緒に繰り返し練習してとても楽しく学習することができた。また、陶器づくりでお家にいらっしゃった叔母さんが、私たちがお皿に絵を描いているとその絵を指し、ひらがなでどう書くのか聞かれた。紙に書いて教えてあげると、展覧会などで日本にいることが多く、語学学校に通い日本語を勉強していると教えてくれた。この話を聞いたとき、私たちが韓国の文化に興味を持つことと同じように、日本の文化に興味を持っている韓国人がいることを知つて嬉しかった。

韓国では、当たり前だが、レストランや、スーパー、カフェなどで、注文する際すべて韓国語で話さなくてはいけないため、とても苦労した。授業中もできるだけ韓国語で話した。先生が何を言っているのか聞いて内容を理解し、韓国語で発言することは決して簡単なことではなかった。言いたいことはあっても、韓国語の単語が出て来なくてとてももどかしかった。この研修で、韓国語の能力がどのくらい身についているのかを知ることができた。これからは、授業だけではなく、自分で単語を覚え、積極的に韓国人と交流をして今よりももっと韓国語を話せるようになりたい。



2月2日～15日まで、二週間の東西大学集中講座に参加しました。

今回、このプログラムに参加した目的は3つある。一つ目は勉強を始めて2年が経つ韓国語の勉強を現地で実際に活かす。二つ目は交換留学出来ていた友人達と再会し、美味しい物を食べ沢山話を。三つ目は釜山という土地で、習慣の違いや方言、歴史や文化に触れる。以上の三点を中心に今回のプログラムについて振り返る。

釜山は初めてであるが、韓国を訪れたのは4回目であったため、食事の文化や道路の違いなどといった日本との違いには驚かなかった。しかし一番新鮮であったのは現地の方々が話す釜山の方言だ。短期で大正大学に留学に来ていた友達と再会し、ご飯を食べている時に方言について話をした。ソウルで遣われている言葉とは語尾に違いがあったり、否定する「～ではない、じゃない」といった言葉の表現が違うことを教えてもらった。大学の先生方や学生の会話を聞いてみると、話している内容を少し理解することが出来た。しかし、大学近くの食堂にいるおじさんやおばさんの釜山弁は訛りが強く、聞き取りが少し難しかった。少し極端な表現になるが、日本でいう標準語を遣っている東京はソウル、訛りがある大阪は釜山だと韓国の友達から聞いた。方言以外には、女性に対する男性の性格(人によるが)について、ソウル男性はストレートに気持ちを表現するが、釜山の男性は逆にクールだ、などといった話をした。友達は日本語が上手なので会話は日本語だったが、日常的な実例や単語を韓国語で教えてくれたので、教科書では習う事のないネイティブな韓国語に触れる事が出来た。

二週目に入つてから、東西大学の日本語学科の学生とグループを組んで一日釜山を観光するというプログラムがあった。私たちのグループは、一週目の顔合わせの際に仲良くなつた日本語学科の友達3人と大学の後輩2人、計6人で南浦洞に行くことになつた。

南浦洞は釜山の港を一望できる釜山タワーや、名物市場となつてゐる国際市場、釜山最大の水産市場であるチャガルチ市場があり、釜山で最も有名な繁華街である。

現地集合をしてからお店や屋台が並んでゐる通りを歩き、屋台の定番であるお菓子、ホットクを食べた。日本で売つてゐるホットクとは違い、餅米で作つた生地にシナモンシュガーとナツツが詰め込まれてゐる釜山式の物を食べることができた。

一通り繁華街を楽しんでから、タクシーに乗つて甘川(カムチョン)文化村という場所を目指した。目的地までは少し坂道になつてゐるため、混んでゐるバスで向かうのは少し危ないという友達の配慮がありタクシーに15分ほど乗つた。タクシー運転手のおじさんは、目的地を聞いて私たちが観光で来たと分かると、甘川文化村について話を始めた。今では釜山のマチュピチュと呼ばれ、観光名所になつてゐるが、もともと朝鮮戦争の時に、北朝鮮側から戦争を逃れるために逃げてきた避難民達が住居を求めて、集落を作つたのが、この山に囲まれた地域だといふ。

タクシーを降りると案内所があり、村の観光地地図を購入することができる。スタンプラリーをしながら回ると、さまざまな角度からアートや景色を楽しむことができるようになつてゐる。私たちも色々な場所に行つては、たくさん写真を撮つて思い出として残した。レトロながらもカラフルでユニークな建物や、おもわず写真におさめたくなるような可愛いオブジェなどが沢山あり、いくつもある階段や坂道の辛さを感じさせないほど、楽しむことができた。

語学は自分で勉強できるが、その国の地域や歴史、文化については、現地でこそ学べるものが多いと感じた。今回はその運転手のおじさんが教えてくれたことにより、観光だけでなく歴史や地域の特色に触れることができた。思わぬ出来事だったが、二週間の滞在中に印象的だった出来事の一つとして、この運転手のおじさんの話があげられる。話を聞いたことによって、他にも知らない釜山だけでなく韓国の沢山の歴史や文化に触れたいと再確認し、その為にも語学力を更に向上していかなければいけないと思つた。

政治や歴史を絡めれば解決していない問題がある日本と韓国だが、交換留学や短期研修を通じて留学生と交流すると、お互いに興味のある国同士を知ることができ、分かり合えることも多いことに気がつく。私は今まで出会つた人・友達との出会いを大切にして、今後も語学と韓国という国について勉強を続けていきたい。



今回この語学研修に参加して、私は多くのことを得られたと思います。私にとって韓国の地を訪れるることは初めてのことではなかったため、日本を離れて異国へ行くことの不安というものはあまりありませんでした。しかし、釜山を訪れるのは初めてでしたし、2週間もの期間を海外で過ごすことも初めてだったので、不安以上にそれに対する楽しみや緊張感が多くありました。

釜山の地に2週間滞在したことで新たな発見や日本とは異なる点などに気づくことができました。まず最初に困惑したことは言語でした。韓国語については事前に学んでいたため、ある程度理解できると思っていましたが、釜山の韓国語には方言もありイントネーションも標準語と少し異なったために理解に苦しみました。日本にも地域によって方言があったりイントネーションが異なったりするように、韓国でも同様に地域によって言語が多少異なってくるのだなと実感しました。また、私たちが韓国人ではないとわかるとゆっくりと話してくださったり、分かりやすく説明してくれる人、困っていると助けてくれる人も多く、釜山の人々の温かさを感じました。

外に出ると日本ではあまり見ることのできない広い道路が目にに入りました。どこに行っても車線数が多く、車のスピードがとても速いことに驚きました。また、歩行者用の信号も日本と比べて点滅に変わるのがとても早く焦ってしまいがちでしたが、その分点滅している時間が長いという違いに慣れるのには少し時間がかかりました。気候に関しては、東京では体感することのできないような寒い日もありました。日本では寒い時には、主にこたつやエアーコンディショナー、ヒーターなどを使って寒さをしのいでいますが、韓国の地では主にオンドルという床暖房を使って室内を暖めていて、エアコンを使って暖をとっているところはほとんど見られませんでした。床暖房だけでは寒さをしのぐことはできないだろうと思っていましたが、想像以上に暖かく寒さのひどい日も快適に過ごすことができました。

食の面でも日本でのものとは異なる点も多く存在しました。韓国で使われる箸やご飯の入っている器はステンレス製で、たいていの食事は箸とスプーンで行われます。日本では食事の際にご飯茶碗やお皿を持って食べることがマナーとされますが、韓国では逆にお皿を持ち上げて食べることはマナー違反でした。その他にも、1人ひとりに出されるような大きさのチゲやスープも韓国ではみんなで分け合って食べます。また、メニューにも一人前のものもありましたが、それよりも二人前以上のメニューが多くあつたように感じました。このように、1人で行動することに抵抗のない環境のある日本とは違って、韓国ではほとんどの人が友人や同僚といふことが多い、日本のように1人で食事をするのは気まずくも感じるほどでした。韓国の人々にとって食事はみんなで楽しみながらするものだという意識が強いのだなと思いました。

私たちはただ釜山で2週間を過ごしたのではなく、韓国語の授業や韓国人学生との交流、それから校外へ出て韓国の歴史を感じる建物の見学や韓国の食卓には欠かすことのできないキムチを作る体験、そして韓国の伝統衣装である韓服を着てみる体験など普通では経験することのできないことを経験してきました。とくに韓国人学生との交流では、日本語学科の生徒との交流だつたため、互いの国のことについて話したり、韓国のことについても教えてもらうことができ、お互いにとてもいい時間を過ごせたと思います。

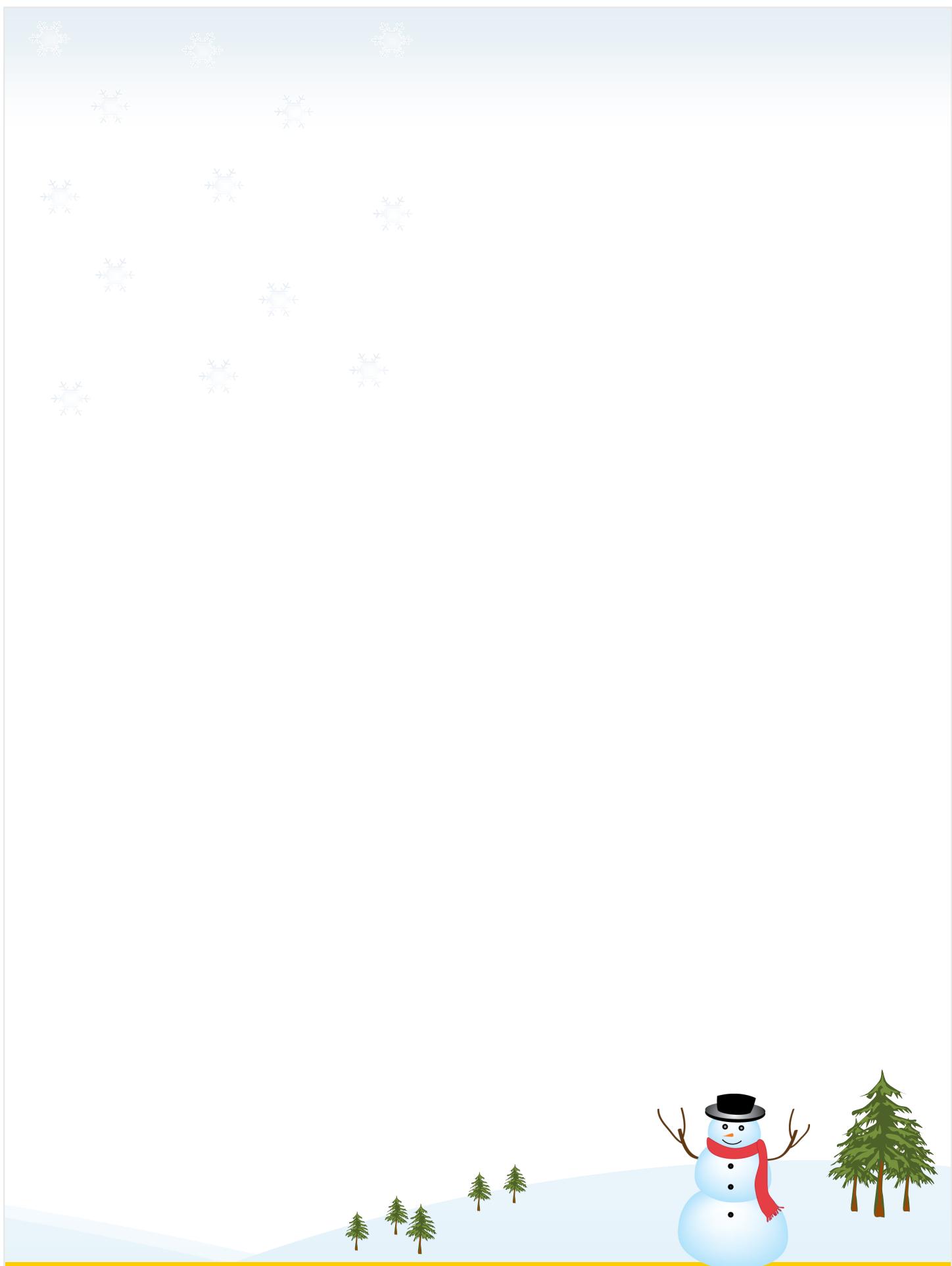
この東西大学校での語学研修は、あまりに短すぎると感じるほど毎日が充実していて、私にとってとても価値あるものだったと感じています。自国ではない国で生活をすることで新たな発見をすることができただけではなく、比較することで自分の国についても自分自身よく知る必要がある、見直さなければならないと思うきっかけともなる研修だったと思います。



私たち大正大学の9名は2月2日から2月15日の14日間、韓国釜山にある東西大学校へ語学研修を行った。私は、海外渡航が初めてなので自分の最も興味を持つ韓国へ行くことができて良かった。まず、授業では韓国人ならだれでも知っている昔話を日本語に修正しながら朗読したり、韓国の映画を字幕なしで鑑賞したり日本ではなかなか体験できないものであった。その中で、日本と韓国のマナーの違いを比較してみる授業があったのだが、食事中にげっぷをしたりご飯に箸をさしてはいけないなど、日本と韓国では食事中のマナーはあまり違いはなかった。しかし、偉い人や自分より歳が上の人と食事をする際は違いがみられた。例えば、韓国では家族で食事につくときは家長である父親(あるいは祖父)が箸に手をつけるまでは食事してはいけない。(今はそれほど厳しくないそうだ)また、酒の席では年長者に酒をつぐ際は、そそいでいる腕に手を添えなければならない。飲むときは年長者に見られないように少し横を向く。儒教を重んじる韓国では、年長者に失礼があたらないような行動が多く見られたが、日本は韓国ほどではないと感じた。授業以外でも様々な日本と韓国の違いを発見した。第一に、公共の乗り物についてだ。釜山では、日本のように地上を走る電車はなくてほとんど地下鉄だ。ICカードがありお金をチャージしていくか切符を購入するかはほんとあまり変わらないが運賃が日本と比べ物にならないほど安い。バスも運賃は安くて嬉しかったが、韓国国内でも特に釜山のバスは運転が荒く初めて乗車した記憶が今でも鮮明に残っている。バス停で待っていてもバスはあまり近くまで寄って停車してくれず、乗客が道路にまで乗車しなければならない。急ブレーキも頻繁にあって日本でこんな運転をしたらバス会社にすぐクレームが入るだろうと考えたほどだ。第二に、飲食店のサービスの違いである。日本では『お客様は神様』と呼ぶ店もあるほど客に対して笑顔で接客をするが、韓国は日本ほどではない。また日本の飲食業は、仕事中の携帯電話の使用は厳しく禁止されているが、韓国ではレジに立っていても客がレジに来るまで携帯電話を使用していた。ここに日本人と韓国人の価値観の違いを感じた。中でも、私が最も驚いたのは店員が客席で休憩をとっていたことだ。普通は休憩室などで休憩をとるので日本では、見られない光景だった。第三に、日本人と韓国人の人間性の違いだ。一つの国の中にも様々な人はいるが、私が感じた韓国人は、日本でいう大阪の人に似ていて

見知らぬ人でも困っていたら話しかけるような人々が多くいた。韓国に向かう前、釜山の人は無口で静かな人が多いと耳にしたことがあったのだが、韓国語が読めずに困っているときも通りすがりの女性が手助けしてくれたり、心が温かくなった。また、日本人はお礼を口に出して言う人が少ないが、韓国人は些細なことでもなにかしてもらったときや、品物を受け取るときに声に出して感謝の言葉を伝えていた。日本人も、この点を見習っていくべきだ。そして今回、語学研修に行くにあたり一つの目標として韓国人の友達を10人作りたいと考えていたのだが、無事目標達成できた。これから、より連絡をとりお互いの語学力が上達できるようになればいい。最後に、この語学研修を通じて自分の韓国語能力のまだまだな点や、伸ばしていく点を見つけられた。また、韓国では日本語を諳せる韓国人が多かうたのでついで日本語で会話してしまったので、次に再び機会があるならば韓国語で会話できるレベルまで上達したい。





成果は数字で測れない

報告書の中に、学生たちが強く感じ取っている「世界の中の日本」についてこう述べている。

「グローバル化が進み、日本にいながら世界と繋がることが容易になった今だからこそ、外国に行く必要がなくなったのではなく、むしろ実際にやってみて自らの目で見たことを、自分自身で考えることがとても重要になってくるのではないかと思う。井の中の蛙になってはもったいない。」「日本の歴史からも分かる。島国だから、ということを言い訳に、なかなか世界と触れ合おうと行動してこなかった自分が、結局はすごく日本人らしいと思った。日本のこと好きであり、日本人らしい自分も好きだが、今回の経験を通して、もっと日本を知るべきだと感じ、さらに考えるだけでなく行動し世界に触れたいと思った。」彼らの言葉すべてを語っているように思われる。外向的になれずに「内向化」になりつつある大学生たちが多い中で、このような気持ちを少しでもファシリテートできたなら、私達、国際教育を担当する者としては、今後の学生に示すべき操舵は自ずと預けられたのではないかと思う。今後とも、きっかけを作ること、学生自らに気づきと発見を大切にプログラムの推進に邁進したいと考えている。

。

名前 東西大学校語学研修 2015

住所 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

大正大学

教務部学修支援課

国際

電話番号: 03-5394-3039

FAX 番号: 03-3918-9179

電子メール: kokusai@mail.tais.ac.jp

